

視察報告

【視察場所】大阪府大阪市、兵庫県神戸市

【視察者】小田 晃士朗

【地方創生、地方活性化にむけて】

●視察日：2015/10/15 10：00～16：30

●視察先：大阪府大阪市

説明者：元武雄市長 樋渡 啓祐

1、目的

武雄市長時代の樋渡氏の実例を学び、呉市政において応用できるか考察する。
また議員として、思考力、行動力の醸成。

2、概要

【基礎編】10：00～12：30

- ・武雄市での取り組み
- ・フェイスブックを用いることで何がおきたか
- ・自治体経営の改革と情報発信
- ・これからの地方議員にむけて

【応用編】14：00～16：30

- ・100万人が来る図書館
- ・自治体競争を生き抜く勘所
- ・武雄市での教育改革
- ・ふるさと納税制度の活用方法

3、まとめ

パワー溢れる講演に終始圧倒された1日であった。

樋渡氏、自前のマックPCから繰り出される躍動感あるプレゼン資料は目を奪い、合わせてユーモア溢れる軽快なトークで聴くものを魅了する。自ら体験した成功、失敗談を赤裸々

に語り、そこから得た教訓を私達に講演下さいました。これからは①その教訓と、その際に挙げられた②実例が呉市にとって有益か述べていきたい。

① 教訓

議会が市民の中心に

「毎日のように議員宅へ戸別訪問をした」そう笑いながら話す、樋渡氏。

自分のやりたいこと、考え方を意思決定である議会の構成員「議員」に理解してもらうことが市長の仕事であると主張する。武雄市の場合、行政運営を副市長に、議会調整を市長が行うよう意識したという。議員と市長のみ、選挙で選ばれる市民の代表であるが故、行政と議会を結ぶ橋渡しとして市長の仕事を位置づける。その他施策として、ケーブルTVを100%完備、再放送は19:00～、視聴率は約50%。Ustreamでも再放送を行ったという。議会での市民の関心を高め、市全体で市を考える。そういったガバナンスを取ることが必要である。

TTP＝徹底的にパクリ

弱いチームは独創性云々の前に、強いチームから学ばなければならない。うまいやり方があれば真似ていく。

例)・アバ(スウェーデンのミュージシャン)→ガバ(武雄市のがばいばあちゃんを集めてダンスチーム結成)

- ・呼子朝一→楼門朝一
- ・企業の営業部→武雄市営業部
- ・無印用品→FB良品(自治体運営型通販サービス)
- ・代官山蔦屋書店→武雄市図書館
- ・武雄温泉楼門→武雄温泉駅舎

見える化+エッジ化(話題性)

人は見えるものでしか判断できない。このバズワードを何度も聞いた。

例えば、水道料金を2%下げましたより、20%下げましたの方がより強調して目立つので、話題性があるし市民にも関心を持ってもらうことが可能である。その考えを根底に行った事業例が、武雄市図書館改革と、HPのフェイスブック化である。

年中無休の図書館、市民全体と繋がる事ができるフェイスブック、話題性として十二分である。事実、新聞テレビなどの反響が大きく、一気に武雄市が全国区となった。

官が先、そこから民へ

八幡製鐵所を例に挙げて、上記意見を述べられた樋渡氏。

武雄市では公立小学校と民間の学習塾が手を取り、教育を行っている。行政の指導案で教

えるのは学校教員。唯一違うのは教え方を民間のノウハウを応用する。タブレットなどの全生徒配布など行政から力を入れ、行った成功例である。

守→破→離

前例ばかりではダメ、進化していく、踏襲することも絶対に必要である。

従来の HP をフェイスブック化、そして通販まで武雄市は手がける。

② 武雄市の事例について

■図書館改革

呉市においても地域活性化の 1 つの手段として必要であると考えます。

理由としては、立地の良さ、集客力が挙げられる。人を集めるリアルな場所と考えたとき、図書館というのは無料であり、垣根が低い。本を読むという行為だけでなく、武雄市のように組合せる事によって、市民の憩いの場として、集客場所として活用できる。隣に文化ホールもある事もメリットとして考えられる。例えばそこで歌舞伎の演芸があったあと、図書館に寄ってわからなかった事を調べたり、時間の合間にはカフェスペースなど休憩の場所としても使える。

呉の中心が武雄市のように、年中無休で稼働することは、呉市街の稼働にもつながるのではないだろうか。

■議会改革

ケーブル TV を全戸に繋ぐことは、呉市の規模において非現実的であると考えます。しかし、市民との距離をより近くと考える私にとって、Ustream、You-tube などの動画共有サイトにて、市民の皆様がより簡単に議会へアクセスできる事は必要であると強く考える。

■教育改革

小中一貫教育を行う本市にとっては、民間企業との連携は難しいと考える。なぜなら、小学校と中学校では教育の方法が違ふと個人的には考えるし、行政のみで情勢すべきと思うからである。しかし、専門的な教育において、部分的な連携は賛成である。義務教育化された授業においての講師であったり、文化・スポーツの教育であったりは民間のノウハウを借りる事も有益だと考える。

■HP のフェイスブック化、通販サイト運営

想像もつかない事業であるとの印象が正直なところではあるが、話題性、そして実用性としては非常に面白い事業である。HP の閲覧数、利用目的などの本市のデータを踏まえ検討したい。

【防災について】

- 視察日：2015/10/16 10：00～12：30
- 視察先：兵庫県神戸市（人と防災未来センター）

1、目的

防災・減災についての知識を学び、災害に対する正しい知識を身につける

2、概要

阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に伝え、防災・減災社会の実現をミッションとして掲げている。展示・資料収集、保存だけでなく、災害対策専門職員の育成、交流ネットワークとしての場所としても利用されている。その他、IRP（国際防災復興協力機構）、ADRC（アジア防災センター）などの機関が入居している。

3、まとめ

当センターにある資料などを見ることにより、減災の大切さを知ることができました。阪神・淡路大震災の被害が大きかった要因として、もちろん震度の規模や、発生した時間帯、建造物（木造）の密集などが挙げられますが、一番は災害に対する意識が低かったと感じます。近年では豪雨など、今まででは観測できなかった予測不可能な自然災害が起こっており、これを防ぐことは不可能である。万が一の不足の自体に備えて、どのような対策が必要か、準備が必要か市民ひとりひとりが意識して、行政と協力していかなければならない。必要な資源とコストで最大限の成果を出すこと。もちろん生命や財産が守れることを前提に、地域との協働をこれからも強くしていかなければならない。